

第3回 循環共生型の地域づくりに向けた検討会 資料

前回の議論の整理と全体構成

2014年12月12日

1. 前回の主な論点

資料1

①地域経済循環分析の位置付け

- ✓ 地域経済分析は一定の有効性を持っているが、従来の経済分析が主たる対象であるということ、この手法の意味と限界を踏まえて展開を考えるべきである。
- ✓ 地域経済循環分析と目指すべき地域像との関係を明示すべきであり、それが地域づくり・低炭素というフィルターにかかることで、より厚みのある議論になる。

②経済以外の側面の重要性

- ✓ 地域経済循環分析は、経済面から見たもので、他の側面、特に社会的側面が全く見えない。経済分析はあくまでも一つの切口であり、地域経済循環で評価できてないところも重要だと地方に伝えていく必要がある。
- ✓ 地域の取組では、経済を貨幣経済、協働の経済、自給自足の経済の3つに分けて考えてきた。究極的には、地方において収入が低いとしても、助け合いやお裾分けで、支出も同じように少なくて済むならば、地域としての力は出てくると考えている。

③ストック(環境、経済、社会)の再構築の必要性

- ✓ 地域経済循環の視点に加え、ストックの視点、文化の要素等を加味しながら、地域経済をどう捉えられる、目標とするものをどう描けるかというのが大事である。
- ✓ 環境政策で投資をするならば、建物・施設に地域のストックになるようなお金のかけ方をして、将来に生かしたほうがいい。
- ✓ 時間軸として100年を考え、これまで壊してしまったものを100年かけてどう作り直すのかという時間軸で考えた方が良い。

2. 全体の見取り図

資料1

